

会議の概要

委員	<p>1 開 会 傍聴者の確認、交代委員の紹介（1名）、欠席および代理出席の紹介 －鹿嶽教育長 挨拶－</p> <p>2 部会の目的、協議内容、運営方法等について・・・資料1 －事務局より資料に基づき説明－</p> <p>前回の協議会では「過去に検討した4案」についてまず説明してもらおうことになっていたと思うが、【資料1】では④番目に協議ということになっている。それはどう考えたらよいか。</p>
事務局	<p>「過去に検討した4案」については、本日の【資料3】にも再掲している。今日のテーマは「学校再編について各委員の思いを出し合う」ということにしているので、そのことも含めて意見を出していただけたらいいと考えている。</p>
委員	<p>今日の協議テーマについては理解している。前回の協議会で、費用のことや検討プロセス等の質問が出ていたので、次回以降、資料等を示して説明していただきたい。</p>
学校長	<p>3 上野台中と八景中の現状と課題について・・・資料2 －事務局より資料に基づき説明、補足説明を学校長に依頼－</p> <p>上野台中の1年生は、現在2学級だがぎりぎりの41人。1人転出すると、1学級になってしまう。2年生は1学級37人、3年生は2学級43人。部活動では、女子バスケットと女子バレーに1年生が入部していない。3年生が引退すると、この2つの部は人数不足で試合ができないので、他校との合同チームということになる。市の方針に基づき、主たる連携校である八景中との連携を進めている。1年生女子で部活動に登録できる生徒は11人。女子が入部できる5つの部活から生徒が選んだ結果、バスケットとバレーの入部者がいなかった。生徒総数だけではなく、男女の比率によってもこのような問題が出てくる。資料には、自転車通学生徒の最長時間が約30分となっているが、その子が1年生の時は約40分かけて通学していた。教職員数は、特別支援学級を含む学級数で決まる。現在、特別支援学級を含め7学級なので、教員の定数は、教頭を除き11人。その他、加配教員として生徒指導1人、新学習システム1人が配置されているが、受け持ちの授業時間数が決まっていること、学級担任ができないことなどの制約がある。定数11人のうち、特別支援学級担任が2人なので、主に教科指導にあたる教員は9人。中学校は教科担任制で10教科あるので、教員の数が教科数に足りないことになる。免許外指導を避けるとなると、複数免許を持つ教員を配置するなどの工夫が必要となる。来年度は、よくて4学級、場合によっては3学級を覚悟している。特別支援学級2学級</p>

	<p>として全5学級なら定数は教頭を含めて9人になるが、特別支援学級担任を除くと7人となり、3人の複数免許取得者が必要となる。1人の教員が2つの教科で1～3年の全ての授業を受け持つということは、指導・評価・教材準備等を考えると大変な負担となる。現在、本校には複数免許を持つ教員を3人配置してもらっていることで、何とか教科のやりくりができてきている状態である。来年度以降の学校経営を考えると、その少ない人数で部活動や学校行事、組織的な運営を行わなければならない。職員体制を考えるとまずは複数免許を持っているかどうかを基準になり、教員の適正は二の次になる。1人の教員が複数の学校で指導できるように県に要望したが、それは出来ないという回答であった。今いる子どもですら専門の指導が受けられるかどうかぎりぎりのラインであり、さらに生徒数・学級数・教員数が減ると、課題がより大きくなると考える。上野台中と八景中には共通点がたくさんある。生徒会を中心に生徒の自主性を尊重していること、不登校対策に力点を置いていること、特別支援教育に重点的に取り組んでいることなどである。そのような共通点のある学校が一緒になり、例えば ICT 教育に力を入れることで子どもの学力が保障出来たらと思う。三田市に学ぶ子どもたちが均等に教育を受けられる環境をどう整えるのかということが、学校のあり方についての一連の議論の始まりだったと記憶している。この協議会での協議を通して、今上野台中で学ぶ子、未来に入学してくる子にとって望ましい環境を整えてもらえればうれしく思う。</p>
委員	<p>中学校の課題についてよくわかった。学校の再編をするにしても最低3～4年がかかるとなると、今上野台中に学んでいる子どもに対して市教委としてどのように取り組むのかを教えてほしい。</p>
事務局	<p>上野台中に対しては、これからも複数免許取得者や加配教員の配置などの配慮はしていきたい。今まで子どもたちが受けてきた教育を大切にしつつ、他市の様々な取り組みも参考に、市としてやるべき事はやっていきたいが、なかなか難しいところもある。学校再編により子どもの学ぶ環境を整えていくのが一番良いのではないかという考えのもとに、今回の再編計画をお示ししている。</p>
委員	<p>仮に特別支援学級を含めて5学級になったとすると、教員数は何人になるのか。</p>
学校長	<p>配置基準としては9人になるが、2人が特別支援学級担任となるので7人で10教科を担当することになる。</p>
委員	<p>教員が9人となると、現在7つある部活動を継続させることも難しいということか。</p>
学校長	<p>もし2人の加配教員の配置があるとして計11人の配置とすると、5～6つの部活動が限界となる。</p>

<p>委員</p>	<p>自分の子どもも上野台中に通わせていたのに、このような状況にあるということを知らずに、話を聞いてびっくりしている。</p> <p>4 グループに分かれての協議 — 「資料3」 およびグループ協議の方法等について事務局より説明—</p> <p>【保護者グループ・地域グループに分かれて協議】</p> <p>5 グループで協議された内容について報告・共有・まとめ — 保護者グループ・地域グループの各記録者より報告。ホワイトボード内容は別紙のとおり—</p>
<p>保護者グループ記録者</p>	<p>本日の協議テーマは「学校の再編についての思いを出し合う」ということ、さらには「各組織でどのような取り組みがされているのか」ということを全ての委員から発言いただいた。まず1つ目として、上野台中の小規模校としての良さを大事にしていきたいということ。小規模校の課題もあることから、市街化調整区域をはじめとしたまちづくりの工夫によって、人口を増やすことも考えてほしいという意見が出された。2つ目は、上野台中の課題解決のためには、学校再編を検討する必要があるという意見。具体的には、上野台中と八景中を統合する行政案とその他の方策があるが、いずれにしても条件として、充実した施設、通学バス等の通学手段の確保、徒歩・自転車通学のための安全対策、教育環境の整備と学習支援などが出された。また、資料にある「過去に検討した4案」の評価・検証も必要との意見があった。これらの課題を総合的に検討することで、子どもたちにとって望ましい教育環境が見えてくるのではないかということであった。上野台中の課題解消のためには、部活動の問題、教職員体制の充実、中学生という成長段階への配慮、めざす学校像の共有などが大切な視点になること。今後協議を進めるにあたっては、現在上野台中に通う子どもたちへの支援、行政案に至ったプロセスやその他質問に対するていねいな回答、市としてのリーダーシップを発揮しスピード感を持った協議、学校再編時に在籍する生徒へのケア、小規模校の定義（学級数なのか1学級の生徒数なのか）の明確化などを考慮してほしい。いずれにしても未来を見据えた協議をしていきたい。保護者グループでは、以上のような意見が出された。</p>
<p>地域グループ記録者</p>	<p>地域グループでは、学校再編について大卒の意見をたくさん聞かせていただいた。結論付けると、「学校の再編には賛成」ということであった。それを実現させるために、市教委として強い意志を示してほしいという意見もあった。部活動の数が限られていること、チャレンジできる環境が制限されていること、就学前の幼児が地域にほとんどいないことなど上野台中や地域の状況を考えると、1日でも早く協議を進めて、結論付けていくべきだという意見をいただいた。一方、小規模校の良さもある。上野台中の子どもたちは、その中で精一杯頑張っている。そのことも発信していくべきであるという意見もいただいた。学校の再編を進めるにあたっ</p>

	<p>て、路線バスを含めた市全体の交通体系についてしっかり考えてほしい。通学バスを走らせると、路線バスが減り、地域の人が不自由することが考えられる。そうならないように市として考えてほしい。年度末になると地域協議会の委員の交代もあり得るので、この部会のまとめは、事務局提案の来年3月より早くなるようにスピード感を持って協議を進めるべきである。もし行政案がなかなか進まないのであれば、八景中以外の学校との再編や校区変更など柔軟な発想で考えていけばよいのではないか。地域グループでは、以上のようなご意見をいただいた。</p>
事務局	<p>2つのグループに共通する点がいくつかあった。会の進め方について、今の子どもたちへのケア、通学手段の確保などである。本日出てきた意見・課題を整理しながら次回以降の協議を進めていきたい。</p>
委員	<p>8月4日に開かれる八景中校区部会の議事録を私たちに示してほしい。</p>
事務局	<p>その予定である。</p> <p>6 次回予定 - 9月中旬に19:30～有馬富士共生センター開催を提案し、了承-</p> <p>7 閉会 - 松下学校教育部長 挨拶-</p>